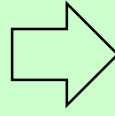


## 畑地かんがい用水を利用した露地野菜の産地形成

## ～お染ヶ岡管理組合員の取組～

## 経営体の概要

通水開始前：平成23年度  
 基幹作物：キャベツ、はくさい等  
 作付面積：171ha  
 労働力：179名



現在：平成30年度  
 基幹作物：キャベツ、はくさい等  
 作付面積：181ha  
 労働力：174名

## 取組の経緯と経営転換のポイント等

お染ヶ岡管理組合は、昭和48年度に河川等からの水管理を行う組織として設立した。国営事業等で確保された畑地かんがい用水が平成28年度に通水開始されて以降、水源となるダムからの水管理を行うなど、キャベツ等の産地を下支えする活動を行っている。当組合を構成する受益農家では、畑地かんがい用水を活用した栽培により、キャベツ等の単収向上の他、後継者学修会による栽培技術の向上や、他組織との連携による「ひまわりキャベツ」ブランドでの産地化など、産地としての認知度向上に取り組んでいる。

## 営農改善のポイント

## ①作物の変化

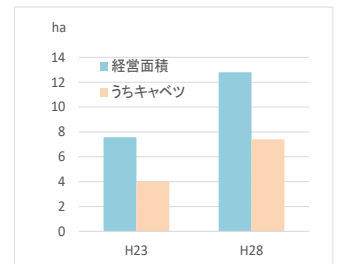
通水開始前は、河川やため池から軽トラで農地へ水を運び、キャベツ等へかん水していたが、平成28年度に通水開始後は、畑地かんがい用水の活用によって、かん水作業の労力が軽減され、作付面積の増加にも繋がっている。

## ②単収・品質の向上

通水開始後は畑地かんがい用水を活用し、キャベツの単収が増加（A農家H23:4.0t/10a→H28:4.5t/10a）するとともに、キャベツ、はくさいの産地として計画的・安定的な作物栽培に取り組んでいる。また、当組合を構成する受益農家の後継者は、毎月キャベツ学修会を開催し、土づくりなど栽培技術の向上を図っている。

## ③流通・販売の工夫

平成22年度の口蹄疫に伴う堆肥不足をきっかけに、受益農家の後継者を中心として、有機物供給とキャベツ、はくさいの連作障害も回避できる緑肥「ひまわり」を用いた輪作体系を確立している。平成25年度には、高鍋町内の女性農業者で構成される「農奥」を中心に、ひまわりを栽培した畑で収穫されたキャベツを「ひまわりキャベツ」として登録商標を取得するなど、産地としての認知度向上に欠かせない取組を行っている。



作付面積の比較（A農家）



キャベツ学修会の様子



自走式散水機によるキャベツへのかん水

## 事業概要

事業種：国営かんがい排水事業  
 関係市町：川南町、高鍋町、都農町  
 受益面積：1,580ha  
 事業期間：平成8年度～平成25年度  
 事業目的：畑地かんがい  
 主要工事：ダム2カ所（うち1ヶ所は改修）、  
 頭首工1カ所、用水路36km、  
 ファームポンド4カ所、導水路1km

## 位置図（宮崎県）



## &lt;問い合わせ先&gt;

九州農政局  
 農村振興部農地整備課  
 電話：096-211-9111  
 （内線：4773）

（令和元年度調査時点）